



発行所
真宗高田派宗務院
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部



文子御裏方から
御母上に宛てた手紙



(奥) 妹君の武子様 (手前) 文子御裏方

文子御裏方の 百年忌に思う

常磐井 和子

その年伊勢一身田の春は、御開山聖人六百五十年忌の慶祝の瑞気に満ちていました。四月六日から十六日に及ぶ御遠忌の間、広い境内は立錐の余地なく参詣の老若男女で溢れ、お念仏の声は地鳴りのように町中に響いていたと言います。

新門の堯猷上人は近衛家のお生まれで、幼少からのお約束で、常磐井家に養子に入られました。そして実弟の津軽英磨様の影響で志を立て、十四歳の明治十九年から明治二十三年まで、ドイツなどヨーロッパ各国に留学しておられました。そのご帰国を待つて、明治三十三年早春に、結婚の儀が行われました。

入興されたのは、西本願寺大谷光尊門主の長女文子様でした。後にシルクロード探検の大事業をされる大谷光瑞上人は兄君、後に社会事業に命を捧げる歌人の九条武子様は十歳違



御開山聖人六百五十年忌の様子

りました。さて実はお二人は、結婚の翌年、第二子祥磨様の急逝に遭遇しておられます。明治三十六年五月三十一日の逝去、六

月五日の御葬儀でした。それからたった五日しか経たないのに、文子様は六月十日の坊守会定例日にいつも通りに御出席なさっています。御簾越しの御聴聞とはいえ、抑えがたい思いもおありだったことでしょう。いかにも温和なお人柄と見える文子様ですが、内に秘めた御覚悟は確かなものでいらしたのでしょう。こうして、御自身の生死の境も、立派に越えていかれたかとお察し申し上げます。

文子様の御遺物の中に、紐でくくった小冊子の束がいくつかあるのを、先日発見しました。それは古びたパンフレットで、御門徒の婦人向けの教養誌の数々でした。切手も帯封も付いたままで、日付けはまさに御命終前後のそれを示しているのです。お元気でいらさるすぐにも読み始められた筈の御本は、披かれることもなく、中に記された法語も生かされることもなく、茫々百年の年月を過ごしていました。これは、「生きていくなら、今聴かなければならない。百年忌にあたっての、文子御裏方のお浄土からのメッセージかも知れません。」

宗門を率いるのは、専修寺第二十一世の堯猷上人としてこの大法会円成を待つて、御法主の地位を継がれるのは新門の堯猷上人、と次第相承にも明るい展望が開けていました。

いの妹君という、すばらしい家庭にお育ちでした。御遠忌の勤つた明治四十五年には、お二人の間に、幼いお子様が三人おられましたから、とかく静寂そのものと想像されがちな、本山の奥深いお住まいにも、明るい声や小さな足音が響いていたことでしょう。

しかし、七月に入りますと、明治天皇の御不例が伝えられ、やがて崩御されました。国中が諒闇と申す喪に入つて間もなく、大正元年八月二十二日早暁、なんとということでしょう、今度は文子御裏方が急逝されたのです。お体に次の命を宿されたまま急変を起さされたと承ります。御入興から十二年、「實明院光暁堯文大信女」と申し上げることになりました。

月五日の御葬儀でした。それからたった五日しか経たないのに、文子様は六月十日の坊守会定例日にいつも通りに御出席なさっています。御簾越しの御聴聞とはいえ、抑えがたい思いもおありだったことでしょう。いかにも温和なお人柄と見える文子様ですが、内に秘めた御覚悟は確かなものでいらしたのでしょう。こうして、御自身の生死の境も、立派に越えていかれたかとお察し申し上げます。

文子様の御遺物の中に、紐でくくった小冊子の束がいくつかあるのを、先日発見しました。それは古びたパンフレットで、御門徒の婦人向けの教養誌の数々でした。切手も帯封も付いたままで、日付けはまさに御命終前後のそれを示しているのです。お元気でいらさるすぐにも読み始められた筈の御本は、披かれることもなく、中に記された法語も生かされることもなく、茫々百年の年月を過ごしていました。これは、「生きていくなら、今聴かなければならない。百年忌にあたっての、文子御裏方のお浄土からのメッセージかも知れません。」

御遠忌報告号

開山聖人 750 回遠忌報恩大法会 たくさんの方にご参詣いただきました



「ことばの重みを大切に」

御遠忌大法会を終えて

総務 藤山 眞哉

「聖人のみもとに帰ろう」という基本理念のもとに全山一丸となつて営んだ「開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会」は、厳かにかつ賑々しく執り行われ、高田派の歴史に大きな足跡を刻みました。法会がすめばそれで終わりではなく、その心を大切にして、日常の法耕に怠りなく、次なる段階に進めていかななくてはなりません。

私はその一つに「ことばの重みを大切にすること」ということを強く感じています。とくに、聖人のおことばを拝読するときであります。

具体的に申すならば、聖人が命がけで求めつづけられ、歳月をかけて何度も何度も推敲を重ねたとめあげられた『顕浄土真実教行証文類』以下『教行証文類』。それは聖人の主著であるとしてさらつといただくわけにはまいりません。自力聖道門（主に比叡山）の人々から否定された専修念仏・本願念仏の教え（他力浄土門）が、真実を宗とす

る教えであることを力強く主張し、訴えられた血の通つた御著書であります。

とくに「総序」「後序」の両方の冒頭の部分には、「竊かに以みれば…」というむつかしい見慣れない文字を用いて書き出されています。ある注釈書には「わたしなりに考えてみると…」とありましたが、それだけで読み流してしまつてはなりません。「竊」の字は、「尙」（穀象虫）が、「穴」（米倉の小さな穴、すき間）をさがし、さがして奥の奥におさめられている秘蔵の「采」（米）を求め、わがものにしようとする様子を表しています。

それは何を物語っているのでしょうか。聖人が、奥の奥に秘められている真実を宗となす教えを求め求めつづけられているお姿にほかなりません。それは、聖人の真実探求の基本姿勢であり、

これが『教行証文類』の撰述の基本姿勢でもあります。これを感じなくては『教行証文類』をひもとくことにはなりません。

「ことばは単なる記号ではありません。深い心・思いがこもっています。ことばには、重みがあります。」

そういうことを大切にして、聖人のおことばをいただきたいということも、聖人のみもとに帰ろうの趣旨にかなうことだと思います。

また、このたび念願の『真宗高田派聖典』が発刊されました。座右の書としてひもときたいものです。



『顕浄土真実教行証文類』序 冒頭

参詣者の
みなさまから
学んだこと



誓元寺衆徒 栗原 妙法
開山聖人七百五十回遠忌
報恩大法会が無事厳修され
ましたこと、心よりお慶び申
し上げます。

この度、五十年に一度の大法
会ということで、少しでも何か
お役に立てれば、という思いか
ら、期間中の事務局でのお手
伝いを申し出ました。私にお
任せいただいたお仕事は、如来
堂前テントでの記念品販売で
した。親鸞せんべい、お念珠あ
め、絵はがきなどを参詣者の
みなさまに販売させていただきました。

毎日販売テントにおります
と、一日を通して、参詣される
方の様々な表情を見ることが
できました。老若男女問わず、
団体、家族、個人、さらには派
を越えてのご参詣など。来ら
れた想いは様々あるかと思い
ますが、みなさまから共通し
て感じさせていただいたことは、
「開山聖人の七百五十回忌
をご縁としてお参りさせてい
ただくことへの喜び」でありま
した。

がしたい、と願ったのはまだ一
年前くらいのことです。お寺に
生まれ、ずっと仏法にふれさせ
ていただきながら、私はいつも
「どう幸せになろうか」という
ことばかり考えて生きてまい
りました。

自分の力ばかり信じて、幸
せを手に入れようと必死に走
り続けたとき、私はつまずき
ました。そして、家族や友人の
強いはたらきかけによって、
「生きていくことがすでに幸せ
である」ということに気づかさ
れました。それは、幼いときか
らずっと私のそばにあった、親
鸞聖人の示して下さっていた
道だったのではないかと感じて
おります。

「この歳になつてな、親鸞聖
人の御遠忌にお参りさせてい
ただくことができ、こんな有
り難いことはないんです。」
おせんべいを買って下さったお
婆さんにかけて頂いたお言葉
です。

私は今二十六歳です。五十
年後生きていければ七十六歳。
八百回忌をお迎えするとき、
再びたくさんの方々のご縁を
喜びご参詣されますように、
高田派の僧侶として微力なが
らお力になれるよう日々努め
て参りたいと感じることがで
きました。

合掌

御遠忌を
終えて



一身田町 加藤 壽一
御本山の前の門前町一帯を
寺内町と呼んでいます。御本
山と共に発展してきた寺内町
も、先の五十年前の御遠忌の
頃と違い、今や寺内町の面影
もすっかり変わり果て、どの
町とも変わらぬシャツターの閉
まつた商店街となっています。

寺内町に住んでいる人々の
中には、おそらく御遠忌が始
まつても多くの方々をお迎え
することは無理ではないかと
の想いを抱く方もいました。
そんな想いの中とはいえ、数少
なくなつた寺内町商工会の
方々、寺内町の住民達は御遠
忌のため、街の飾り付けや清
掃等に積極的に尽力し、御本
山のためにと進んで多額の金
品を喜捨されました。この寺
内町に住む人々の心は、常に
御仏につかえ、本山を愛する
気持ちにあふれています。その
気持ちがあふれると、そのよ
うに現れてきたのだと、そのよう
に感じさせていただくには十
分なものでした。私たちは御
本山のお膝元で生れ、生活さ
せていただいております。この
御遠忌には五十年に一度とい
うこともあり、遠方よりたく

さんのお同行の方にお越し
いただきます。参詣していただ
いた皆様をお迎えする、そんな
気持ちで準備から協力させて
いただきました。

今、七百五十回遠忌が終わ
り、八百回遠忌に向かうこれ
からも、今まで以上に人間関
係を大切にし、お互いに仏を
信じて愛をこめて、慈しみのこ
ろで本山の護持に歩ませ
ていただくことはこの上なく幸
せなことです。

すべての行事が終わり、静
けさの戻つた広い境内を、夕暮
れ時に御廟から宝物館までな
んとなく散策しました。御遠
忌に合わすかのように満開に
なつていた桜も散り、緑にかこ
まれた両堂には荘厳さと厳肅
さを憶え、癒やしの時間を過
ごさせていただくことが出来
ました。決して私一人が味わ
せていただくことでなく、この
光景の中に身を置き、御仏の
もと静かな時を過ごす。賑や
かな観光地
の寺院では
なく、ここ
にしかない時
間の過ごし
方です。皆
様にも是非
おすすめし
ます。



武田龍精編
往生論註出典の研究
論大綱／総説偈文／觀察門
／廻向門／解義総説／起觀
生信／觀察体相／淨入願心
／善巧攝化／難菩提障／順
菩提門／名義撰対／願事成
就
参考文獻略記一覽外
定価9000円税込

林 智康著
親鸞聖人と建学の精神
知恩報徳と常行大悲／前に
生れんものは後を導き、後に
生れんひとは前を訪へ／世
のなか安穩なれ、仏法ひろま
れ外
定価1300円税込

北畠晃融著
仏道を学ぶ
普賢保之著
定価1680円税込

本当の幸せとは
— 自己を見つめて —
定価1000円税込

無名会同人編
仏と人47
定価410円税込

松岡秀隆著
蓮如上人の門弟の人々
定価2500円税込

山崎龍明著
歎異抄とともに
定価1050円税込

600-8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
永田文昌堂
電話 0755-33711-9663511
FAX 0755-33711-9663511
振替 01020511-4-903361

御遠忌行事紹介

親鸞聖人の御遷化の歳である九十歳を迎えたお祝いに祖師寿章をお裏方新お裏方の手でかけていただきました。祖師寿表彰者は三七五名にもなりました。皆さんおめでと〜ございます。



10日(火) 婦人大会 祖師寿表彰

宗旦古流は高田本山に伝わる流派です。お抹茶は親鸞聖人の尊前に供えられるため、お点前はマスタクをして行われました。



7日(土) 宗旦古流 供茶式

今回の御遠忌では、本寺より八十六年ぶりに等身の御影をお迎えいたしました。十六日のお見送りの際には、内陣の手前までお出ました。いただいた御影の間近で、たくさんの方にお参りいただきました。



15日(日) 初夜

「750回 しんらんさま ありがとう 本山」 千五百本ものキャンドルで描いた感謝の言葉に灯りが点され、夜の境内にうかがひがありました。



15日(日) 献灯

五十年に一度の 大法会を終えて

本山護持会

副会長 岩崎 克彦

四月六日から十六日の十一日間にわたり、本山では開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会が勤修されました。今回の御遠忌においては、三日間にわたり護持会会員計七十五名の方々のご協力を得て、真宗各派の御宗主・宗務総長、他宗派よりのご来賓のお迎え役をさせていただきました。全員が揃いの羽織袴姿での参加となり、慣れない装束で苦勞しましたが、数回の作法などの練習の上、本番に臨み、無事終えられたこと、また大法会が盛大に執り行われたことを護持会会員皆が喜んでるところです。

遠方の寺院・御同行様には馴染みが薄いのではないかと推察しますが、本山には、真宗高田派本山護持会の名称で本山護持興隆を主眼とした会が設けられています。護持会の主なる事業としては、毎年行事として、一月お七夜参詣、お盆行



高田派本山護持会

事・寺内町行事への協賛、除夜の鐘への協力などが内容となっています。特別な事業としては如来堂・御影堂の修復事業への懇志、また今回の御遠忌大法会への懇志などを実施しました。二年後には十七年に一度の本寺よりの一光三尊佛のお迎えにも参加・協力も行う予定です。

昨今の経済情勢で会員数が少々減少していますが、百名近い数を維持しており、今後とも本山の護持団体としての役割を果たして行きたいと全員が望んでいます。

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田 潤

京都市下京区堀川通新花屋町角 (西本願寺前)
(〒600-8503)

TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇

高田本山御用達
京仏具 **小堀**

本店/京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121代
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈! お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」
お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

七高僧シリーズ①

龍樹菩薩(上)

龍樹菩薩は原名をナーガールジュナといい、龍猛とか龍勝とも訳されますが、龍樹と呼ばれるのが一般的です。ほぼ西暦一五〇年から二五〇年ごろの人です。龍樹は南インドのバラモンの家系に生まれ、生

来豊かな才能に恵まれて、幼少時代にすでにバラモン教の根本聖典を、他人の読むのを聞いて、それよりも早く暗記してしまつたといわれています。年少にして天文地理その他の当時のあらゆる学問を習得し

ました。それが満足できず青年時代にはむしろ欲楽の生活に身をまかせていました。しかし、龍樹はそういう生活を続けたことで欲は苦の本であることを悟り、仏門に帰依しました。

龍樹は、大乘仏教の勃興期のあとを受けて、大乘經典の根本思想を説明し、理論的に体系づけけた人です。龍樹の解明した空や中道の思想が、その後の大乘仏教の発達の根幹になり、インドの大乘仏教

はもとより、中国や日本、あるいはチベットにおいても、その学派や宗派の源をさかのぼると、すべて龍樹の思想に帰着するほどです。そのために、龍樹は古来「八宗の祖」として尊崇されています。

その著述である『十住毘婆沙論』の易行品に「仏法に無量の門あり。世間の道に難あり、易あるが如し、陸道の歩行はすなわち苦、水道乗船はすなわち楽。菩薩の道もまたかくの如し。あるいは勤行精進あり、あるいは信の方便をもって、易行すみやかに不退転に至るあり。」と、難行に対して易行の道が示されています。

親鸞聖人は、『浄土高僧和讃』のなかで、「龍樹大士世にいでて難易ふたつのみちをととき流転輪廻のわれらをば弘誓のふねにのせたまう」と讃嘆しておられます。

聖人は、インド、中国、日本と相承し、浄土のみ教えを明らかにしてくださった七人の高僧を選定しておられます。その第一祖として龍樹菩薩をおかれたのは、この易行品の著述があったことが主な理由です。

(教学院第三部会)



世の中安穩なれ 仏法ひろまれ

絵所頭 御本山絵所 安川如風

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所
〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入(中央局区内)
電話 (075)371-0854・8181~2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

緑と共に75年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士)造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栄真小川町 869-77
TEL 059-232-7453
FAX 059-232-7453

御廟の修覆と

山内全域文化財指定への道程

宝物館主幹 新 光晴 十八年(一九八三年)十月。も

四月十六日、親鸞聖人七百五十回御遠忌の賑わいも過ぎ、修理の成った御廟にお参りしたとき、久しく忘れていた閑かさに気付かされました。御廟の唐門前は参詣の人々があまり訪れないので普段でも静謐な場所なのですが、この日は格別でした。

思い起こすと、如来堂の修覆工事が始まったのは昭和五



拜堂より奥に見える石組の塚が聖人の御廟です

間もない修覆工事が続いて、本山の広い境内は「普請の人々に請う」との言葉どおり「普請場」となり、多くの人々の助力に依つて境内諸堂は見事に修復され、次の八百回御遠忌への橋渡しが整ったわけでした。

この御廟の風景は、規模の違いはありますが、御影堂や如来堂など境内の要な堂舎と同様、江戸初期から幕末までの年月を費やして形成されてきました。御影堂が建立された五年後の寛文十二年(二六七年)に、先ず、親鸞聖人の廟墓を造営し、その後、石橋を隔てた南側の前庭に、文政十年(二八二八年)と安政五年(二八五九年)に骨堂と拜堂とを建立し、更に、幕末の文久元年(二八六二年)には御廟唐門と透塀を設けてようやく現在の姿に整備されたのです。

御廟だけに限らず、江戸時代の記録が伝える境内堂舎の建設工事は、現代の工事と較べるとずいぶんと工期が長く、御影堂については寛文六年(二六六六年)に二応完成していたこと以外あまり詳しく解っていませんが、堂内の中陣に初めて天井が取り付けられたのが宝暦九年(二七五九年)なので、寛文六年以後の約九十年間は小屋梁が見えていたことになりました。また、如来堂の場合、享保六年(二七二年)の筈初めから、基礎を固める地突き作業開始の元文五年(二七四〇年)までは建設資金の問題もあつて十九年が経過しています。寛保三年(二七四三年)二月の立柱式から延享元年(二七四四年)三月の上棟式



までは二カ年ほどで、重機が無い時代にも関わらず、用材を組み上げる期間がとても早いのですが、さらに如来堂完成後の寛延元年(二七四八年)七月の遷仏会まで含めると、実に足掛け二十八年の歳月を要しています。如来堂建立録によると、茶所講の人々が阿弥陀堂(如来堂)の資金調達のため、享保十二年の閏正月に万人講を組織した世話役三十二名うち、二十二年後の遷仏会に参加出来た者は七名。その感慨を簡単に、「二十五人相果申候、残而七人、御遷仏奉逢候」と記述して、これによつて普請が成就したことへの人々の感慨の深さを推し量ることが出来ます。なお、阿弥陀堂門(唐門の正式名)は文化六年(二八〇九年)の木挽き始めから天保十五年(二八四四年)の上棟まで、如来堂を凌ぐ三十五年を要しています。

このように、本山境内の堂舎にはそれぞれに独自の歴史があります。文化財に指定されている建物については詳しい修理報告書が作成され、その保全のために防災工事を施して監視カメラも設置されてい



仏壇・仏具
ぬし与

ホーオーが目印!

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

ますが、その他の建物については現状の図面も無く充分な調査と保全管理が行われていません。そこで、三重県の調査指導を受け専修寺が調査主体となつて、平成二十年度から二十二年度にかけ、未指定物件を含む境内全域の歴史的建造物皆悉調査を実施し、その成果が平成二十三年度に『真宗高田派本山専修寺建造物調査報告書』としてまとめられました。これは今後期待される境内全域の文化財指定を視野にいたれた基本資料であり、親鸞聖人の八百回御遠忌に向けた課題であろうと思えます。

今後の諸法会

◆ 歓喜会

八月十四日～十六日

◆ 實明院様百年忌法会

八月二十一日～二十二日

◆ 讚佛会

九月十九日～二十五日

◆ 資堂講法会

十月一日～三日

◆ 納骨堂法会

十一月三日～四日

今後の行事

◆ 第八十六回仏教文化講座

八月一日～五日

◆ 歴史まるごと体験塾

八月九日～十一日

◆ 第二十回法話発表大会

九月七日

◆ 第五十五回檀信徒研修会

十月



こんな行事がありました

◆ 三月二十六日

◆ 顕慧殿

◆ 御得度披露

昨年(新々門様)のご披露が執り行われました。写真は修復の終わった御廟への御参廟の様子です。



◆ 三月二十七日～二十九日

◆ 中学生教化合宿

親鸞聖人の足跡を訪ね、高田派の起源となる本寺への合宿が行われました。朝にはみんなで御堂の畳拭きをしました。



◆ 四月二十二日

◆ はなまつり

お釈迦さまの誕生をお祝いするはなまつり。みんなで灌仏(かんぶつ)を行いました。この日は雨だった為、建物内を御影堂まで白象と一緒に歩きました。



第86回 仏教文化講座 (聴講無料)

午前九時～正午まで
ただし、初日は
九時三十分より開講式

◆ 八月一日(水)

法嗣殿御親講

◆ 八月二日(木)

講師 大谷大学教授
藤嶽明信先生

講題 本願の一道

◆ 八月三日(金)

講師 東京女子大学教授
勝浦令子先生

講題 日本古代の女性と仏教

◆ 八月四日(土)

講師 広島大学大学院教授
町田宗鳳先生

講題 心と体を結ぶもの

◆ 八月五日(日)

講師 高田中等学校教諭
随願寺住職

松山智道先生

講題 三願転入



高田本山御用達 三重県仏教会御推薦
石碑 記念碑 燈籠
高級御影石専門店
御影石材株式会社
(石に御用の方は) 0120-142540
本店 津市広明町(彰徳寺門前) ☎059-224-1700(代)

お墓 寺標 墓地移転 霊園開発造成
高田本山御用達 全国優良石材店、認定店
創業110余年
株式会社 石仙 (旧(有)山本石材店)
0120-67-4114
四日市市近鉄阿倉川駅前 ☎059-331-4114

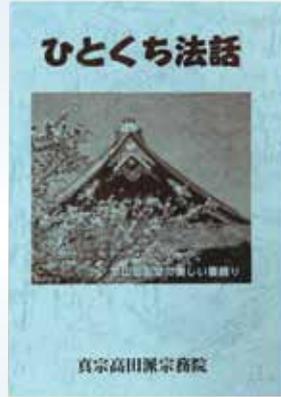
出版物紹介

◆『ひとくち法話』
◆『ひとくち法話2』

真宗高田派宗務院発行

価格 未定

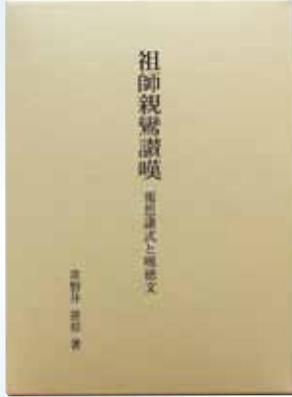
七月中旬発刊予定



◆『祖師親鸞讃嘆
―報恩講式と嘆徳文―』

著者 常磐井慈裕

価格 二、五〇〇円



進納所でお求めいただけます。

歴史まるごと体験塾

平成24年8月9日(木)～11日(土)2泊3日

◇対象 小学5年生・6年生

◇お問い合わせは津市生涯学習課へ

参加者募集

会場 高田本山と寺内町

◇お申込み締切 7月17日(火)まで

電話 059-1229-3251

寺院名

仏教教育研究センター公開講座

(会場：高田会館ホール 受講無料)

講座1 親鸞聖人の生涯 ～ただ一筋の道～
9/21(金) 13:30～15:30
講師 金信昌樹氏

講座2 親鸞聖人のお人柄を仰ぐ
10/19(金) 13:30～15:30
講師 安藤章仁氏

講座3 専修寺如来堂本尊阿弥陀如来立像について
11/9(金) 13:30～15:30
講師 瀧川和也氏

問い合わせ 高田短期大学仏教教育研究センター
TEL 059-232-2310

東日本大震災義援金

皆様のご協力をお願い申し上げます。

1、ゆうちょ銀行、郵便局からの振込み

◆口座記号番号
00870-2-143063

◆口座加入者名
真宗高田派宗務院(義援金)

2、他行からの振込み

◆ゆうちょ銀行
○八九(ゼロハチキュウ)店

◆当座 0143063

3、持 参

宗務院まで直接お持ち下さい

御礼と中間報告

東日本大震災義援金

東日本大震災義援金募集へのご寺院さま、お同行さまのあたたかいご協力に心より御礼を申し上げます。
ここに二〇一二年四月一八日までの集計結果および支援先をご報告致します。

お預かりした義援金は、
総額一七、八二七、九三一円
となりました。

現在までの支援先は左記のとおりです。

中日新聞社三重総局

七〇〇万円

真宗教団連合

三〇〇万円

本寺及び高田派被災寺院

三〇〇万円

全国国宝重要文化財所有者連盟

一〇万円

栃木県真岡市

一〇〇万円

なお、義援金の募集ならびに支援は今後も引き続き行います。

ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。